

最高裁回想録

——学者判事の7年半

藤田宙靖

2012年4月刊/438頁/3990円(税込)
四六判/上製



編集 担当者 から

本書は、行政法の研究者から最高裁判事になった著者が、7年半にわたる最高裁での経験を回想したものです。最高裁判事への就任のいきさつや執務の様子、携わった事件や学者と裁判官についての考察、裁判以外の公務、そして退官までが、一つの流れのなかで語られます。最高裁に興味のある一般の方、法学を学ぶ学生、法曹や法学研究者等々、それぞれの興味と関心から本書を紐解くことができます。巻末には著者が執筆した個別意見22件を収録し、関与した主な事件の表を付けました。

本書をより活用していただきたく、この種の本ではあまり例のないことですが、索引をつけました。裁判所や訴訟に関する専門的な用語はもちろんのこと、「最高裁グッズ」「クールビズ」などの語が並んでいるところからも、本書の豊かな内容を垣間見ることができます。ぜひ本誌特別企画「藤田宙靖先生と最高裁判所(1)～(3・完)」(400号～本号掲載)と併せてお読みください。(Z)

Index



本誌の読者の方には、巻末の個別意見とともに本書をじっくり読むことをお勧めします。

第1章 最高裁判事就任まで

- 一 就任依頼/二 就任まで
- 三 初登庁・認証式・就任記者会見

第2章 執務

- 一 始動/二 事件の審議
- 三 裁判官の日常生活
- 四 最高裁判事の職務の実態

第3章 関与した事件から

- 第1節 概説
- 第2節 行政事件と近時の最高裁(その1)
——行政事件の重要性
- 第3節 行政事件と近時の最高裁(その2)
——司法制度改革との関係
- 第4節 行政事件と近時の最高裁(その3)
——その他の事件から
- 第5節 憲法事件と近時の最高裁(その1)
——変化の胎動
- 第6節 憲法事件と近時の最高裁(その2)
——最高裁は保守的
(conservative)か?
- 第7節 刑事事件と近時の最高裁
一 死刑事件/二 事実認定

第4章 学者と裁判官の間で

第1節 「学問」と「実務」

- 一 思考経路の違い/二 学者は裁判実務に対してどのような貢献ができるか?(その1)——藤田行政法学の場合/三 学者は裁判実務に対してどのような貢献ができるか?(その2)——いわゆる「法解釈学者」の場合

第2節 「判例拘束性」、「説明責任」等々

- 一 いわゆる「判例拘束性」について
- 二 説明責任と個別意見

第5章 裁判以外の公務

第1節 司法行政

第2節 出張

- 一 憲法週間視察/二 外国出張

第3節 判例委員会

第4節 長官代行への就任

第5節 宮中との関係

終章 退官

- 一 最高裁判事の負担過重
- 二 最終退庁まで

〈付録〉個別意見

〈付表〉関与した主な事件